

●横浜税関

安政六年（一八五九）、開港にともない運上所が設置され、明治五年、税関と改称された。翌年、初代横浜税関庁舎が完成したが、明治一六年には、県庁庁舎に転用された。二代庁舎が完成したのは、明治一八年である。

震災当日、税関庁舎は一瞬にして倒壊し、多くの職員が建物の下敷きとなった。英国領事館方面からの火が迫り、難を免れた職員は横浜公園に一時避難した。港内停泊中のコレア丸（東洋汽船株式会社）に仮事務所を開き、物資徴発・海上物資の陸揚げ補助等を開始した。税関本部を西戸部町税関長官舎に移し、九月一三日にはさらに新港岸壁第二号倉庫に移転、翌年、新港構内に建設したバラック二棟に移転した。

現在の税関庁舎は、昭和九年九月に完成した。港側正面にある塔は、「クイーン」の愛称で市民に親しまれている。



震災前：絵葉書「横浜税関 CUSTOM HOUSE YOKOHAMA.」



震災：絵葉書「倒壊せる横浜税関」



復興：「YOKOHAMA CUSTOMS HOUSE」(『YOKOHAMA 横浜』所収)